

中国地区イベント
さくらおろち湖スプリントトライアスロン

(島根県雲南市)
報 告

日 時：2019年6月2日（日）

スタート：11時20分

参加者数：20人

距 離：スプリントディスタンス 25.75 km

結 果：総合15位

総合タイム1時間08分36秒

スイム0.75km=11分54秒（13）・バイク20km=36分42秒（16）・ラン5km=20分00秒（13）

※（ ）内はカテゴリー順位

実はこのレースは若い時にはやっていたが、若い人たちの場だと避けていたものだった。競技生活を考えたとき、もう一度国体において広島県代表の選手として戦う自分を見たいと、ある時期から想ったのだ。

その予選会となったのがこの大会。可能性が出てきたと想えたのは、昨年まで活躍していた国体選出選手がトライアスロンを辞めてしまったこと。こうなれば自分が引っ張っていかなければとも思っていた。私らの世代はすでに国体では監督やコーチとして現場に立つ。出場すれば高齢選手、それも面白いと思った。

スタートラインへ並べば当然のごとく学生から20代、少し30代がいたかなというもの。緊張する若い選手を知らず知らず和ませてやってる自分がいた。結局その選手たちが一斉に勢いよく飛び出しついていけない有様だった。

この距離のトライアスロンはスイムがすべてといえる部分もある。そのスイムで出遅れレースは終わっていた。バイクでは必死で追うが、集団走行をする前方の選手たちとは離れる一方。ランに入っても勝負あつたとわかる雰囲気の中のランニングはきつかった。応援される自分も、する方も何とも言えない雰囲気だった。

見事に思いは儚く散った。もしかすればとの期待を込めての生活を送っていたため、帰省後の晩は体や神経が悔しがらるのだ。気が張り、色んなことが巡るため一睡もできず、夜中から起きてデスクワークをし、明け方から練習へ出ていった。当然無理がたたったのだろう。火曜日から一気に体調を崩し風邪をひくという、もう何年も風邪などひかない私にはきついものだった。ベテランというのに反省しかない今回の出来事だった。

もう国体へは挑戦しないのか…それはまた考えたいと思う。日の丸をつけての夢をかなえているが、やっぱり国体選手に最後はなりたいたいと今でも思う。

この日の最後には、東京オリンピックでも開催予定のミックスリレー（三人組）が大会側で選手を組み合わせたチームで行った。奇しくも私は超ベテラン、あとの二人はこの日初めてトライアスロンへ挑戦した若いジュニアや選手だった。結果は最後尾のびりっけつ・・・でも、この笑顔には未来を感じてもらえるのではなからうか…

感謝 トライアスリート福元哲郎



